



尾花沢を背負って立つ学校～自分たちで創り上げるシン尾花沢中～

校長通信

輝け！シン尾花沢中

ゆくてののぞみ 語りつつ 自律をめざす わが学園

第132号
令和7年
11月26日

税金を納められるよう今できることを頑張る～中学生の税についての作文～

令和7年度中学生の税についての作文で、菅野胡杏さん（3年）が「優秀」と認められ、21日（金）に、村山税務署長さんが来校しての表彰式が行われました。胡杏さんは、自身の医療費が税金でまかれていていることに対して「ありがたい」と感じたことを作文にしました。胡杏さんの作文を紹介します

橋をつなごう

尾花沢中学校3年 菅野胡杏

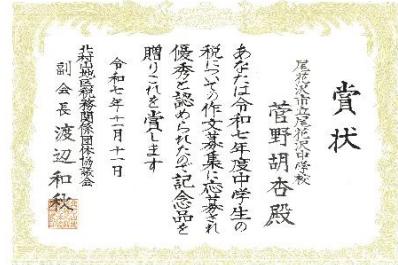
私が「税」と聞いて真っ先に思い浮かべるのは消費税です。母と買い物に行った際、母が「消費税があるから仕方ないな」と言っていました。私も百均で文房具を買うと、100円に10円の消費税が加算されます。消費税はなぜ存在するのか。

私は消費税について調べることにしました。まず、消費税は間接税であること、納付された税は国と地方で分け合うため、国税でも地方税でもあることが分かりました。どちらについても主な用途は社会保障費であり、具体的には年金、介護、医療、子供・子育て支援に使われるそうです。

ここで私は、医療費に目を向けました。私はアレルギー性鼻炎持ちで、毎日舌下免疫法をしています。大人の場合、約5,000円程度の費用がかってしまします。ですが、子供の場合、自治体の子ども医療費助成制度のおかげで、無料で治療を受けられるようになります。ということは、治療にかかる金額は税金で支払われているということです。

もし、この制度がなければ、今のように簡単に治療を受けることはできなくなり、悪化していたかもしれません。この制度に消費税が使われているかどうかは調べてみても分か

税金を調べたことで、胡杏さんが、税金と社会のつながりに気づき、広い視野で物事を捉えることができるようになったことがうかがえます。



りませんでしたが、とにかく誰かがどこかで支払った税が、私の持病を楽にしてくれたことは確かです。

私はこの作文を書くにはあたって、初めて税について調べ、税に対する考え方が変わりました。増税についてのニュースでは反対したり、歓迎しなかったりする論調の報道が多く、マイナスのイメージを持ちやすいですが、ほんの少し調べてみただけでも税に支えられていることが分かります。私の文房具も、どこかで誰かを助けています。貴方が使っている物は私を助けてくれている。そう思うと、消費税が誰もが助け合って誰かの命をつないでくれる橋渡しのように思いました。これから何かを買うとき、レシートに表示される数百円、数十円の消費税は、私が誰かの役に立った証として誇らしく思うことができそうです。

将来社会人になって、消費税だけでなく、様々な税をしっかりと納めて皆の役に立てるよう、今できることを頑張っていこうと思います。



【文責：校長 工藤雅史】